
第2回 昭島市総合基本計画審議会 第2部会

議 事 要 旨

[日 時] 平成22年3月25日(木) 19:00～20:55

[場 所] 昭島市役所 3階 庁議室

[出席者]

1 委員

石崎忠司会長、平畑文興副会長、岡田明恵委員、川元英貴委員、竹村茂己委員、
中野久史委員、長谷川祐司委員、福田晃委員
(欠席者) 稲員とよの委員、矢崎まゆみ委員

2 事務局

日下企画部長、佐藤総合基本計画担当主幹、別所主査

3 コンサルタント会社

田中

[日 程]

1 市民意見の聴取に係わる各種施策の結果について

2 基本計画素案

第5章 基盤を築く あきしま(快適な都市空間の整備)について
ともに築く(都市基盤の整備)

(1) 道路

(2) 公園

(3) 上水道

(4) 下水道

3 その他

[配布資料]

- ・第1回 昭島市総合基本計画審議会 第2部会 日程
- ・ゴミ処理に関する統計資料(多摩地域市町村の実態)
- ・資料1 市民意見の聴取に係る各種施策の結果について
- ・第5章 基盤を築く あきしま(快適な都市空間の整備)

[議事要旨]

1 部会長あいさつ

石崎部会長による開会のあいさつが行われた。

2 第1回昭島市総合基本計画審議会第2部会 議事要旨の確認について

■出席者に自分の名前が抜けているので修正して欲しい。【委員】

○修正させていただく。【事務局】

○ゴミ処理に関する統計資料（多摩地域市町村の実態）について

議題に先立ち、

【質疑応答・意見】

■小金井市のゴミ量が非常に少ないのは、どういう理由か。【平畑副部会長】

○焼却施設の整備がなかなか進まないという課題を抱えており、ゴミの減量化に非常に力を入れている。生ゴミ処理機を各家庭に配布したり、また、事業系ゴミ（持ち込みゴミ）をできる限り受け入れないようにしている。こんなことが影響しているのではないかと考えている。
【事務局】

■民間分は入っていないのか。【平畑副部会長】

○小金井市のゴミ処理については、現在処理施設がないので昭島市や八王子市など周辺地域でサポートしている状況である。そのため、事業系のゴミはできる限り各企業で自己処理をお願いしている。【事務局】

■小金井市は企業が少ないことも影響しているのか。【平畑副部会長】

○そうしたこともあるかもしれないが、現在の小金井市のゴミ量は少し特殊なケースだと思っていただければと思う。【事務局】

1 市民意見の聴取に係わる各種施策の結果について

【説明】

事務局より、資料1「市民意見の聴取に係る各種施策の結果について」に基づき説明があった。

【質疑応答・意見】

■市民意見の聴取に係る各種施策の結果について、市民懇談会や中学校の生徒会役員懇談会等を含めて市民が見る方法はあるのか。【石崎部会長】

○総合基本計画の策定についてホームページ上で情報提供を行っている。審議会での審議終了後、掲載していきたい。【事務局】

■市民の意見を聴くやり方もいろいろあり、もちろん限界はあるが、市民に知らせていくということは大変大切なことである。市民の意見を大切にする、ということで進めていけば、昭島市のいい制度になるのではないかと思います。【石崎部会長】

■商店が減ってきているといったご意見もあるが、最近の一番の問題は駐車場である。駐車場

が近所ないと気軽に買物に行けないので、駐車場が揃っている大型店にみんな行ってしまおう。このような状況についても配慮していただきたい。また、農地も減ってきているので、行政として考えていく必要があると思う。【平畑副部長】

- 地価も高く、駐車場というのはなかなか難しいところがある。駅前の駐輪場でも同じ状況にある。農地の問題にしても税制の関係などで、宅地化の方向に進んでいるのは間違いない。市としてもできる限り農地、緑は残して行きたいが、買い取ることは非常に困難である。その中でも、市民農園などの計画もあり、予算対応も考えている。いろいろ難しい点はあるができることは、一生懸命対応していきたい。現実的にはハードルが高い、というのが実感である。【事務局】

- 商店があれば、通学中の小さい子どもの安全も確保でき、まちも明るくなるのではないかと。お年寄りも気軽に近所で買い物ができないのも困る。商工会もいろいろ努力していかないといけない。【平畑副部長】

- 商店の空き店舗があると、元気がなくなっている印象も与えてしまう。市として可能な部分については、財政が厳しい中でも何ができるか、一緒になって考えていきたいと思う。【事務局】

- 市民懇談会の第3回、緑会館の意見に「多摩川を歩くと福生市域との差が目立つ」とある。これは、財政の制約もあるが、多摩川の占用はしないという市の方針もある。国は占用すれば自由に使っていいとのことなので、考えてみてもいいのでは。また、「ほたるの会」で空いている市有地にプレハブの物置を置かせてもらえないかと契約管財課に相談したところ、移動できるものでないとだめとのこと、断られたが、契約管財課だけの話しで、断るということはどうだろうか。もう少し横のつながりがあってもいいのではないかと。「水辺の楽校」なども昭島は活発にやっている方だし、少しがっかりした。【竹村委員】

- 主管課においてもいろいろと事情あるのではないかとと思うが、主管課に伝えておく。【事務局】

- 毎年行われる多摩川のクリーン運動は、4月に行うが、最近はゴミも少ない。毎年大勢の人が参加するので、この労力を何かもっと有効に使えないか。5月、6月になるとブタクサが目立って取りやすくなるので、5月、6月に実施して、あわせてブタクサの駆除を行うのはどうか。【竹村委員】

- 要望については、主管課に伝える。【事務局】

2 基本計画素案

【説明】

事務局より、「第5章 基盤を築く あきしま（快適な都市空間の整備）」について説明があった。

【質疑応答・意見】

（1）道路

- 4 ページ【基本施策】 やさしさと快適性の推進、B 快適な歩行空間の推進、道路の安全性で景観、美観とは、歩行者、車、どこから見た美観、安全なのか。今までの整備は車側か

ら見たものとなっているような気もするが【平畑副部長】

- 安全性の面では自動車を中心に考えていた面が確かにあると思いますが、今後は歩行空間の安全性、道路全体の美観など、歩行者の面も考えながら計画的に行っていく、こうした視点を持ちながら計画的に実施していく、この部分についてはこのように受け止めていただければと思う。【事務局】

■道路計画は、どこのまちを見ても全体的に同じようにいいことが書いてある。これはこれで必要なのだが、例えば、メイン通りは車いすで通れるようにするとか、何をするのか一目で分かるようなものがない。駅前の歩道も自転車が真ん中に置いてあって人が通れない状況である。具体的に目に見える形で何か訴えるものがあつた方が、市民はわかりやすいと思う。現実の問題として歩道を拡幅するのは難しい、その中でもうまく工夫して、駅までは安全に通行できます、これが昭島の売りです、こういったことが、昭島が何に力を入れるのか、ある程度特化したものが市民に提供できればと思う。【福田委員】

- メイン道路をどのような考えで整備していくか、このことを市民の目でわかるように、具体的に示していく、こういった視点から道路整備の担当と検討してみたい。調整後報告させていただく。【事務局】

■4 ページ【政策指標】のところに、具体的にやろうと思えばできる、10 年かけてやればできるといったような道路整備状況を具体的に提示できないか。計画としてある程度まとめた内容のものとなっているので、市民が見てわかるようなもの、「ああ、そうか、期待しよう」というようなものがあればと思う。10 年計画で全部やるというわけではないので、財政面でも難しいのはわかるが、具体的に目に見えるようなものが欲しい。【岡田委員】

- 道路整備については、担当課と調整を重ね、その結果をまとめた。道路担当としてはいろいろやりたいこと、工夫したいことはあるのだが、財政的な位置づけからなかなか具体的なものは難しい。いただいたご意見を踏まえ担当課と再度調整し、結果を報告させていただく。【事務局】

■財政面で難しいというのはよくわかるが、10 年あることなので、もう少し具体的に目に見えるものが欲しい。【岡田委員】

- 総合基本計画は、基本構想、基本計画、実施計画の三層構造で、それぞれが役割分担をしながら全体的に進めていくものとなっている。財政的な裏づけは、実施計画で、具体的に予算フレームと一緒に議論しながら、3 か年の計画として予算化につなげ事業を実施しているのが実態である。市の取り組みが市民から見ると点でなかなか面にはならない。しかしスポット的にやれるところをやっている。これを点から面にどうやってつないでいくかが、計画の課題ではないかと思う。【事務局】

■私が申し上げたのはちょっと違うのだが、人が通行する部分は、全部道路である必要はない。例えば江戸街道の野球場の周りは厳密に広げたところは道路ではない。それでも使う側から見れば、安全な空間が繋がっている。市役所では、道路の整備となるとまず財源、それからこれは道路で、これは公園でという話しになりがちである。現実的にはそうなのかもしれないが、基本構想の時に、そのような視点で整備していますということが明らかにできないか。

具体的に何年度に何をつくるというのは、予算がそのときにならいと分からないのだが、市民の方が納得するようなことを見せていかないと、なかなか難しいのではないかと思う。【福田委員】

○野球場の周辺整備の発想は、まさにユニバーサルデザインです。この視点は計画でも触れていますが、スポット的にでも、環境が許す部分については、これまでも取り組んできているし、これからも取り組んでいかないといけない、このように考えています。【事務局】

■そのへんを見える形にしてほしい。基本構想の中で、こういうことをやっているのだということがわからないと、市民の理解につながらない。例えば東中神の消防署の前は歩道がほとんどない、道路は都道だということもありません。対応が難しかったが、反対が公園なのでその中を通れるようにした。こういったこともあるので、もう少し上手に提案して欲しいと思う。【福田委員】

○そのへんについては、担当課とも調整し、いろいろ工夫してみたい。【事務局】

■歩道についても広くすると、車道が狭くなり車のすれ違いが危なくなったということもある。成隣小学校のところだが、また、中神の福蔵寺のところもなんでこんなに歩道が広いのか、車が通りづらく、地元では苦情をいった人もいると聞いている。住民の意見をもう少し聞いてもいいのではないか。【竹村委員】

■私は苦情をいったほうの人間だが、都の設計担当へは、車両がゆっくりと通行するようにした方がいいのではといった、別の意見もあったと聞いている。その点では車向けの道路から生活道路になったとも感じている。いろいろな意見があり難しいが、広く意見を聴きながらどの視点で見るかというのが非常に大事だと思う。【中野委員】

■街路灯について、歩道、幹線道路、住宅地内の街路灯の記載がどこかにあってもよいかなと思う。また、3 ページ【基本施策】 やさしさと快適性の推進、A 道路施設の改良の3 番目、「必要に応じ、透水性舗装～」とあるが、車道に透水性舗装はあまり有効ではないのではないか。【中野委員】

○街路灯については、道路施設の中で記載ができないか修正を検討してみたいと思う。また、透水性舗装については、現時点では歩道を中心に考えているので、より分かりやすい表記を工夫してみたい。【事務局】

(2) 公園

■市内に公園は多いが、遊んでいる子供が少ない。木が周りにあって公園の中があまり見えなくて暗さを感じる。もう少し明るい公園づくりにして欲しいと思う。道路から見て子供たちが遊んでいるのが見えたり、子供たちが何でも遊べるような環境が普通の光景としてあるような状態があれば、明るい公園のイメージになると思う。【川元委員】

○児童遊園なども、時間が経つにつれて遊具は古くなり、樹木も剪定等で手をかけないと暗くなってしまう。子供たちが進んで利用できるようなイメージをもった公園整備を進めていくような視点で、記載できないか調整する。【事務局】

■基本施策の 緑地の保全と活用とあるが、大神四丁目の崖線では 100 年以上経っている棕櫚

の木や竹を無断で切られてしまった。緑地保全ということで確保した場所だと思うが、どういう方針で行っているのか、地元住民に説明して欲しい。気付いたら全部なくなっていたという状況はまずいのではないか。【竹村委員】

- 自然のまま残す視点も当然必要だが、貴重な緑を残すためにも、ある程度人の手を入れながら残していくという手法もある。どういう方針か、市民に説明した中で進めていくことは基本であると考えているので、そのへんも踏まえながら、担当課にも伝えておきたい。【事務局】

(3) 上水道、(4) 下水道

- 下水道処理場は早急に高度処理にして多摩川に流して欲しい。施設の上流と下流では魚自体が違っている。玉川上水で水を取らずに多摩川に流せば多摩川はきれいになる。【竹村委員】
- 多摩川に流しているものは基準を十分にクリアしている。更にコストをかけるとなると下水道料金への影響なども考慮する必要がある。安定的な処理に向け、東京都も苦労をしているし、昭島市も意見として伝えています。竹村委員も現状としてご承知だとは思いますが。【事務局】

- 上水・下水は一つのサイクルではないかと思う。一体感の持てるようなアピールの仕方もあるのでは。昭島には上水として 100%安心した水がある、また、多摩川や玉川上水という環境とマッチしたところもある。基本構想であるならこういった流れで、一つのコンセプトとして一体性が取れるのではないかと思う。【長谷川委員】
- 昭島の水は貴重な財産だと思っている。ご指摘のように、それを一つのコンセプトとして書き込むのが、市民にとって分かりやすい、こうした部分もあると考えている。基本計画の施策の部分となるとどうしても担当ごとの縦割りとなってしまう部分もあるので、基本計画ではなくて基本構想のなかで、そういったイメージが持てるような記載について検討し、審議会に諮っていく、このように対応したい。【事務局】

- 地下水 100%で下水に流すのはもったいない。昭島市は水が豊かなところだからこそ、中水道計画があってもいいのではないかと、思う。【竹村委員】
- 中水道の話は、上水道、下水道の両方からみても魅力的な話しだと思う。コストの問題が当然出てきてしまうが、現時点においては水を大切に使いながら、きちんと処理をした環境を整え、地下水 100%のおいしい水を守りながら処理していくことが、これからの 10 年の中で守るべきことではないか、その後についても考えていく必要があると思う。【事務局】

- 12 ページ【基本施策】 公共用水域の水質保全、A 河川水質の保全で、「多摩川及び残堀川～」と書いているが、残堀川は、もともとは湧き水が北から流れてきているのかと思うが、残堀川に水はあるのか。【中野委員】

- 时期的によるが、確かに枯れている時期も多いという状況もある。昭島の水域として、残堀川も排水区域になっているので、外すことが難しかった部分である。【事務局】

- もともと、季節的なもので、雨のシーズンに水があったということか。【中野委員】

- 残堀川は、瑞穂の湧き水が最初の水源地で、6 月など一定時期には常に流れているが、冬場の

渇水期は流れていない。残堀川は治水対策ということで今のような形となっている。台風時期に残堀川がないと浸水を起こす危険性があり、東京都が集中的に対策を行った。また、昔は生活排水が流れ、多摩川を汚す一つの大きな原因でもあった。それを解消したのが下水道整備かと思う。【事務局】

- 11 ページ【現状と課題】3 番目、「時間雨量 50 mm」とはどの程度の雨なのか。【石崎部会長】
 - バケツをひっくり返したぐらいの雨だと聞いている。ゲリラ豪雨などで時間雨量 50 mmを超えるような雨が降ると、マンホールが吹き上げられるようなトラブルも起こるが、基準を上げればコスト増につながる。時間雨量 50 mmは、現時点では数十年に 1 回ぐらいのレベルの雨だと思うが、十分対応しているかという点で十分ではないという人もいてなかなか難しいところである。【事務局】
- 今回はここまでとし、今日議論できなかったところについては、次回さらに意見を出していただく。【石崎部会長】

3 その他

- ・ 次回は、4 月 21 日開催予定